

学生から見える福知山市のすがた

～2040年の未来を「自分で、みんなで」つくるために～

2026年7月14日

福知山公立大学

山岸昭太

岡田愛美

田村洋平

三木日菜子

今紺愛唯

一色紗那

伊藤海飛翔

奥村理子



Contents

- 1 データから見えてくる福知山の現状と未来
- 2 市民会議100の提言は何を示したのか
- 3 まちづくりへの参画を推進するために
- 4 自分で、みんなで福知山をつくっていく

1

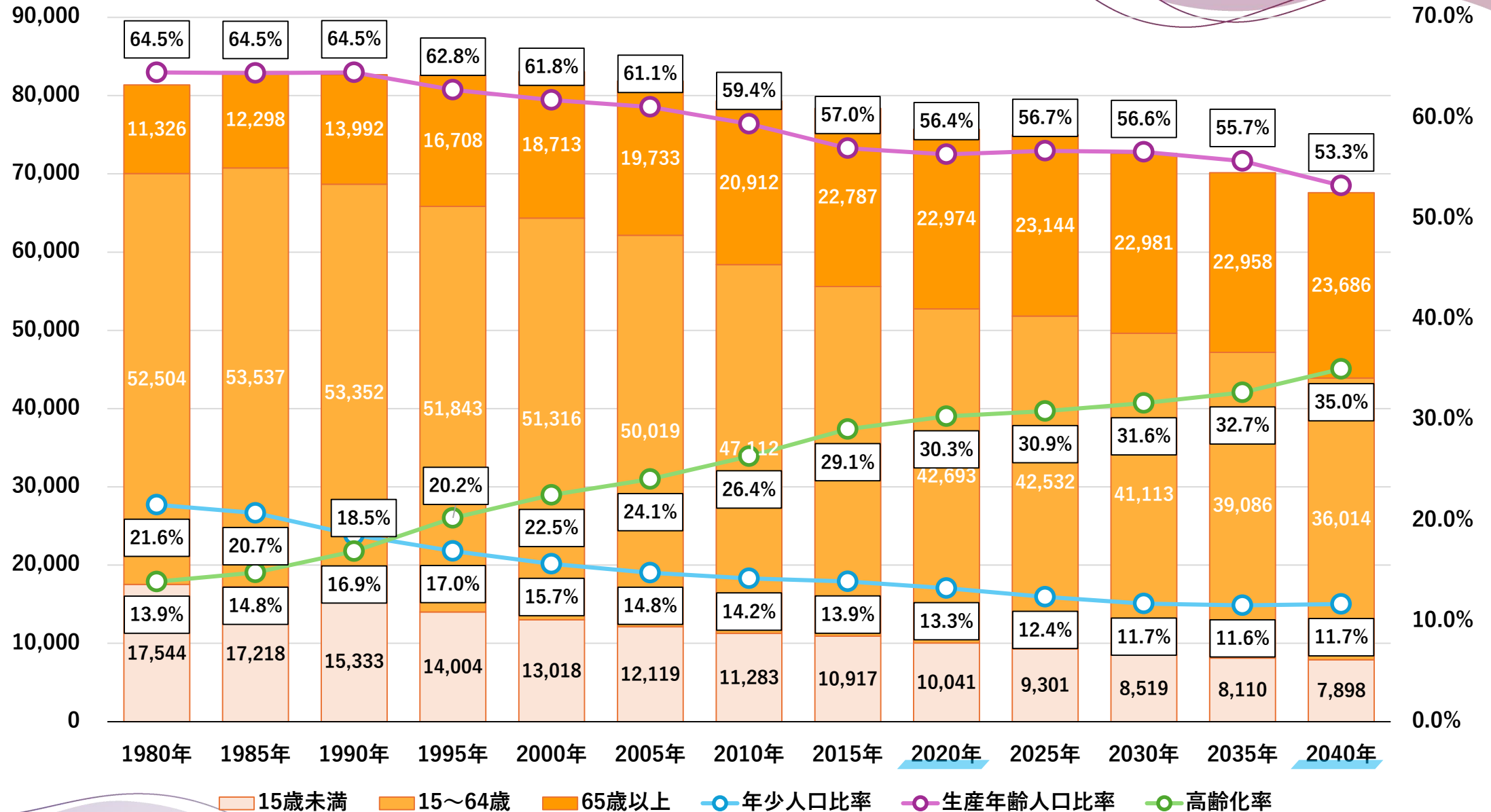
データから見えてくる福知山市の現状と未来

1-1 2040年 ??

9,708

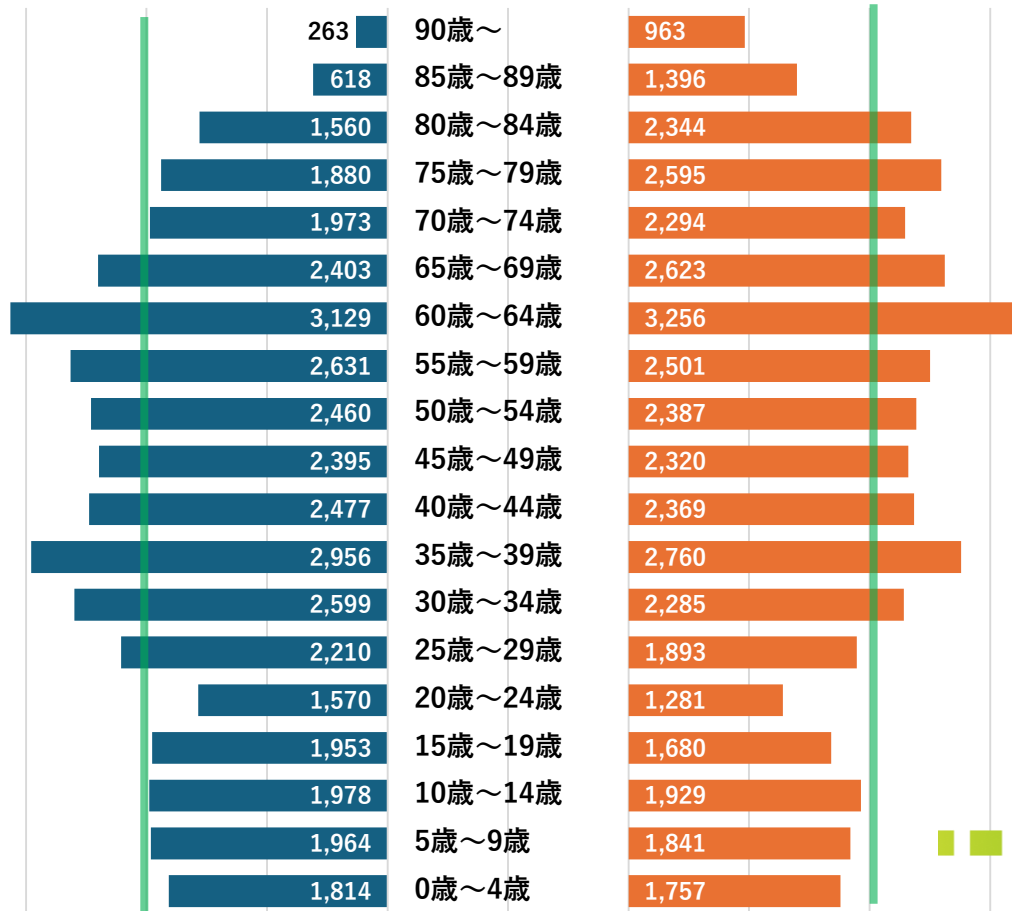


1-2 福知山市の人口推移



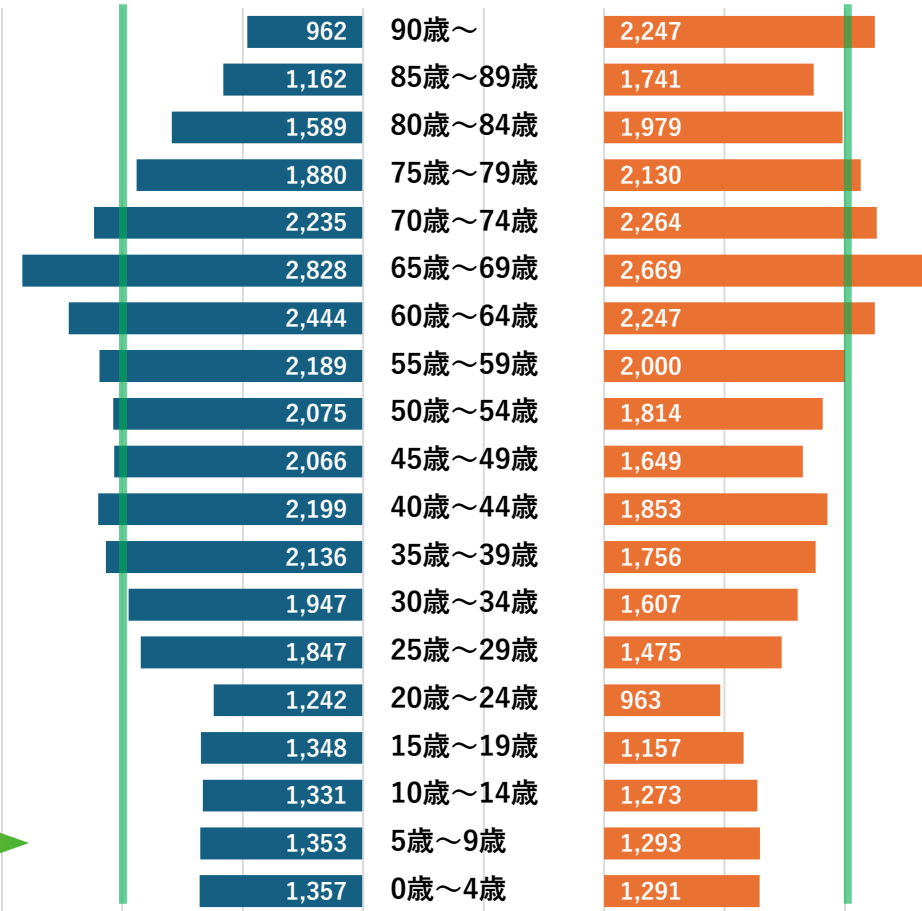
1-3 福知山市（2010年⇒2040年）

2010年



■ 男 ■ 女

2040年



■ 男 ■ 女

「高齢者の多く住むまち」へ移行

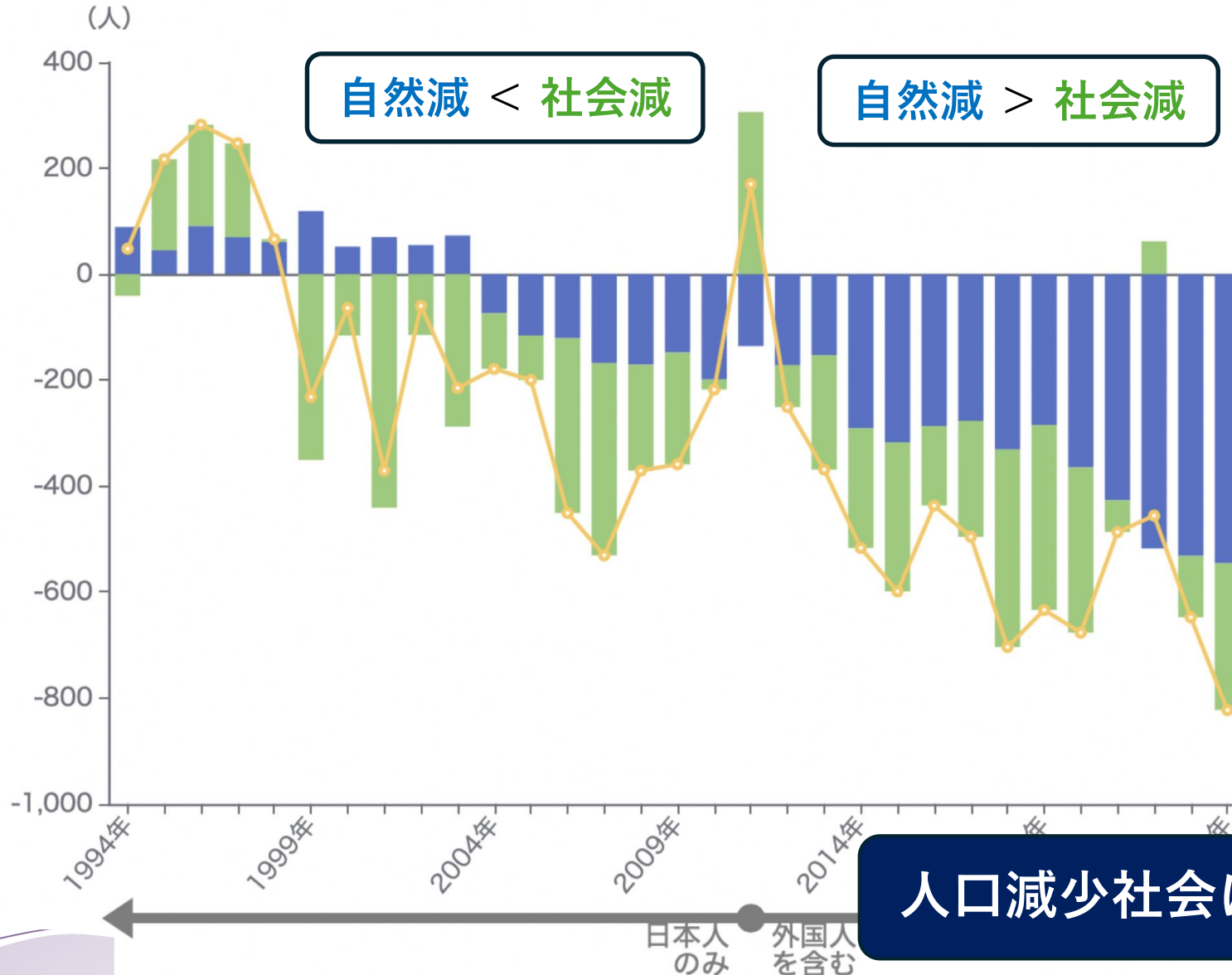
1-4 福知山市の人口増減



- ・ こどもが減り、働く世代も減る一方で、高齢者は増加
- ・ 地域を支える人が少なくなり、支えが必要とする人が増える

1-4 福知山市の人口増減

■ 自然増減数 ■ 社会増減数 ○ 人口増減数



- こどもの減少
- 働く世代の減少
- 高齢者の増加

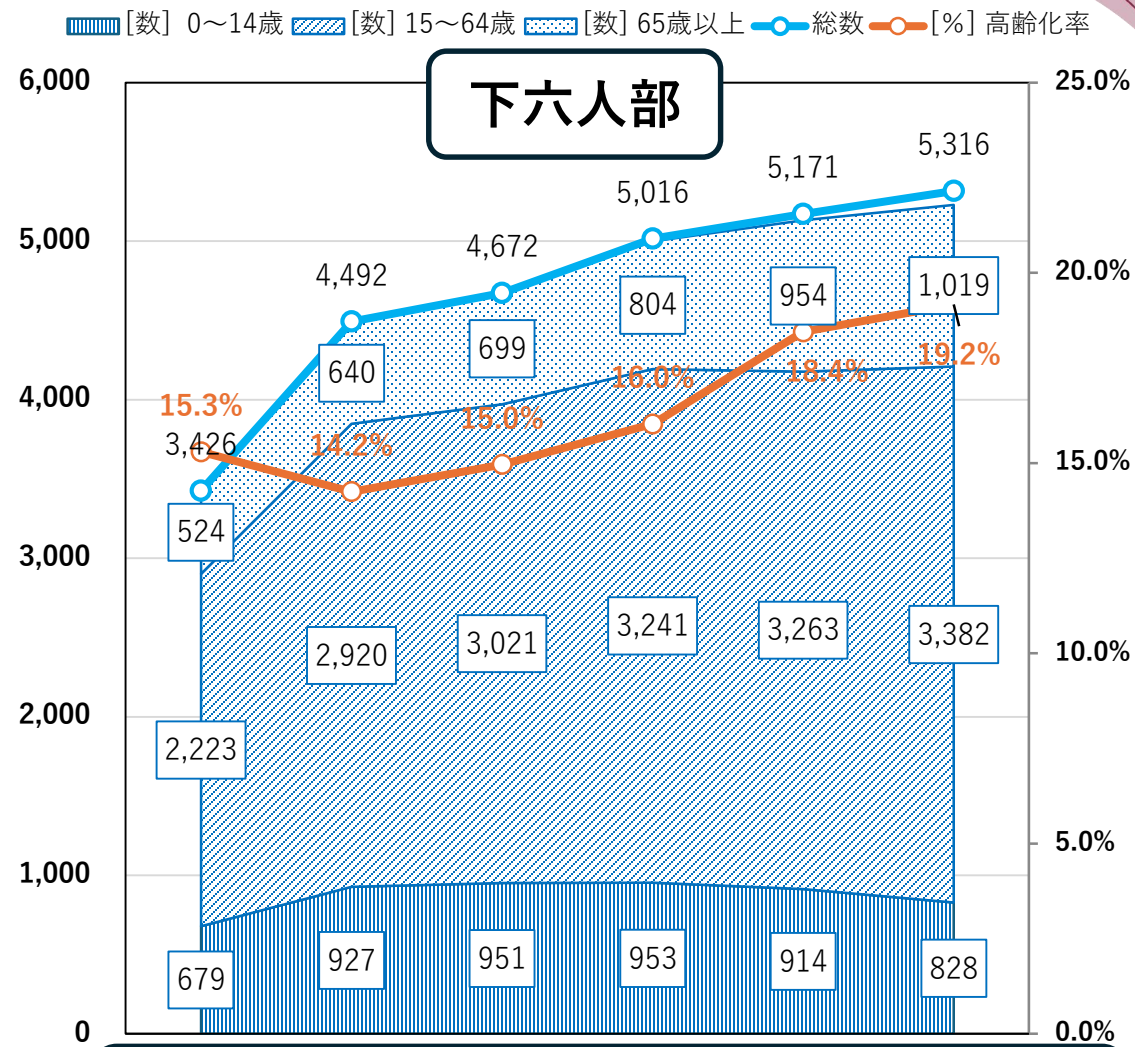
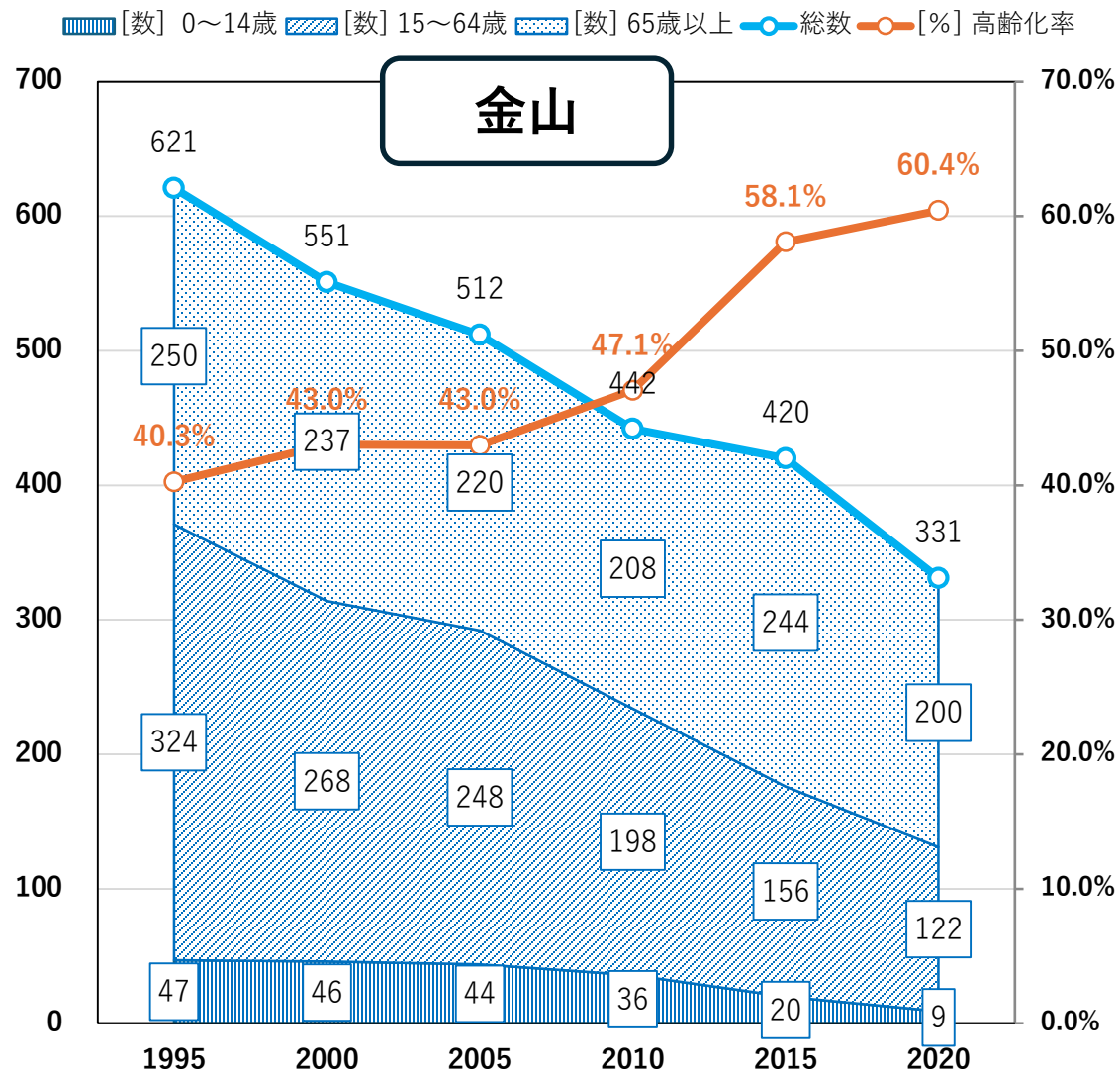


- ✓ 出生数の減少
- ✓ 死亡者の増加
- ✓ 自然減の拡大

社会減への対策だけでは
人口減少は止まらない

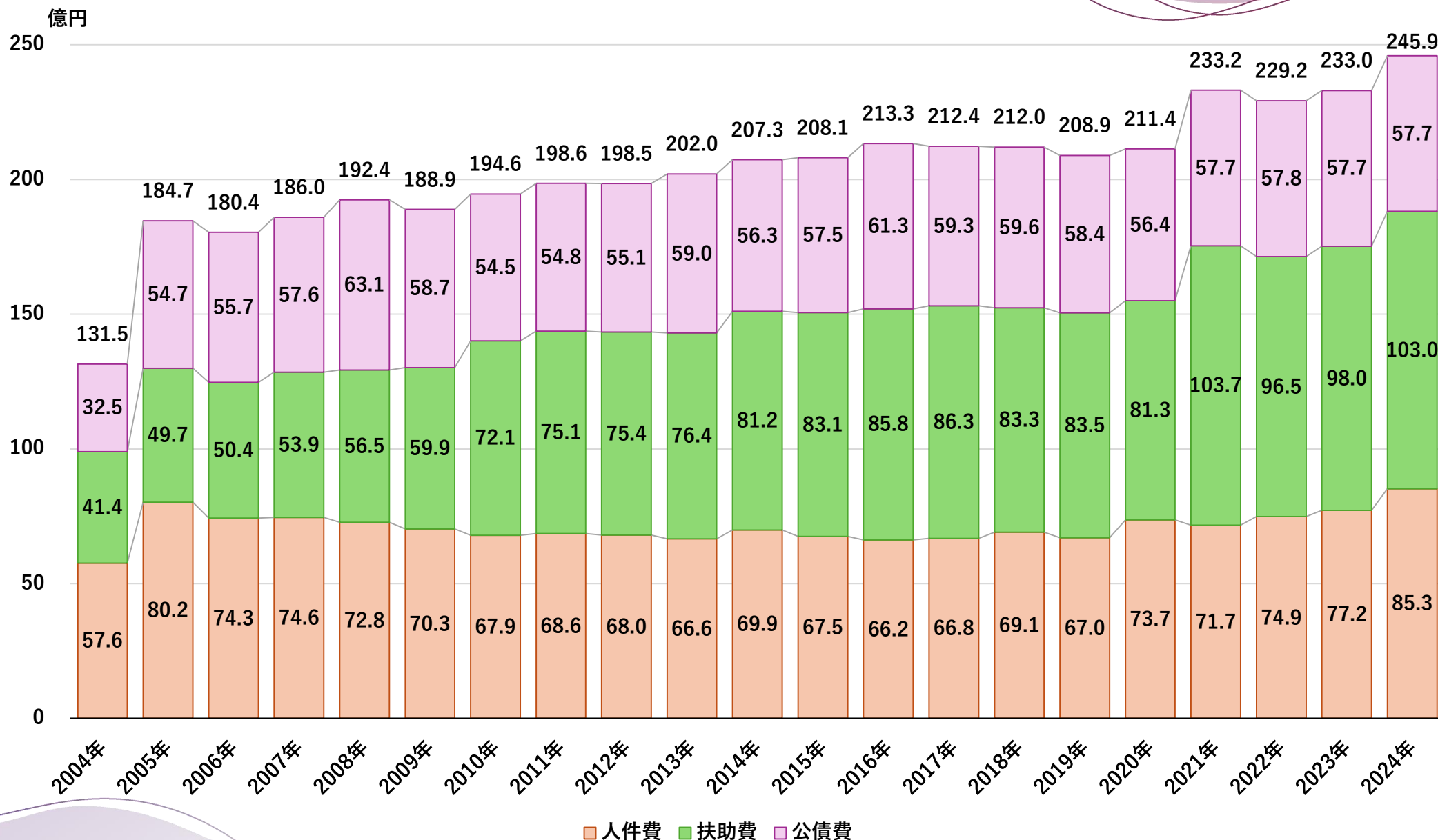
人口減少社会に適用していくことが大切

1-5 地区人口の推移



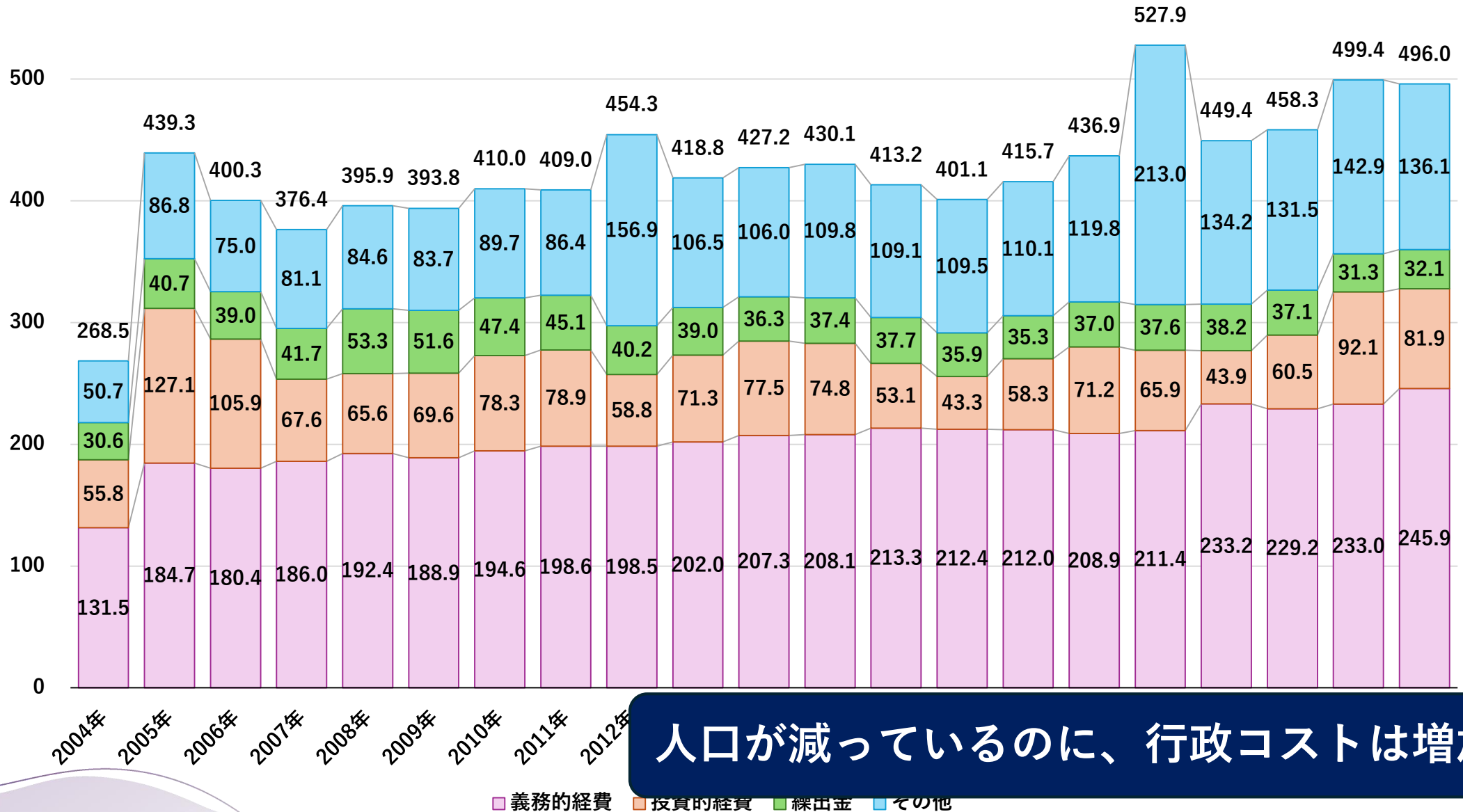
地域ごとに課題は異なる

1-6 福知山市における行政需要（義務的経費）



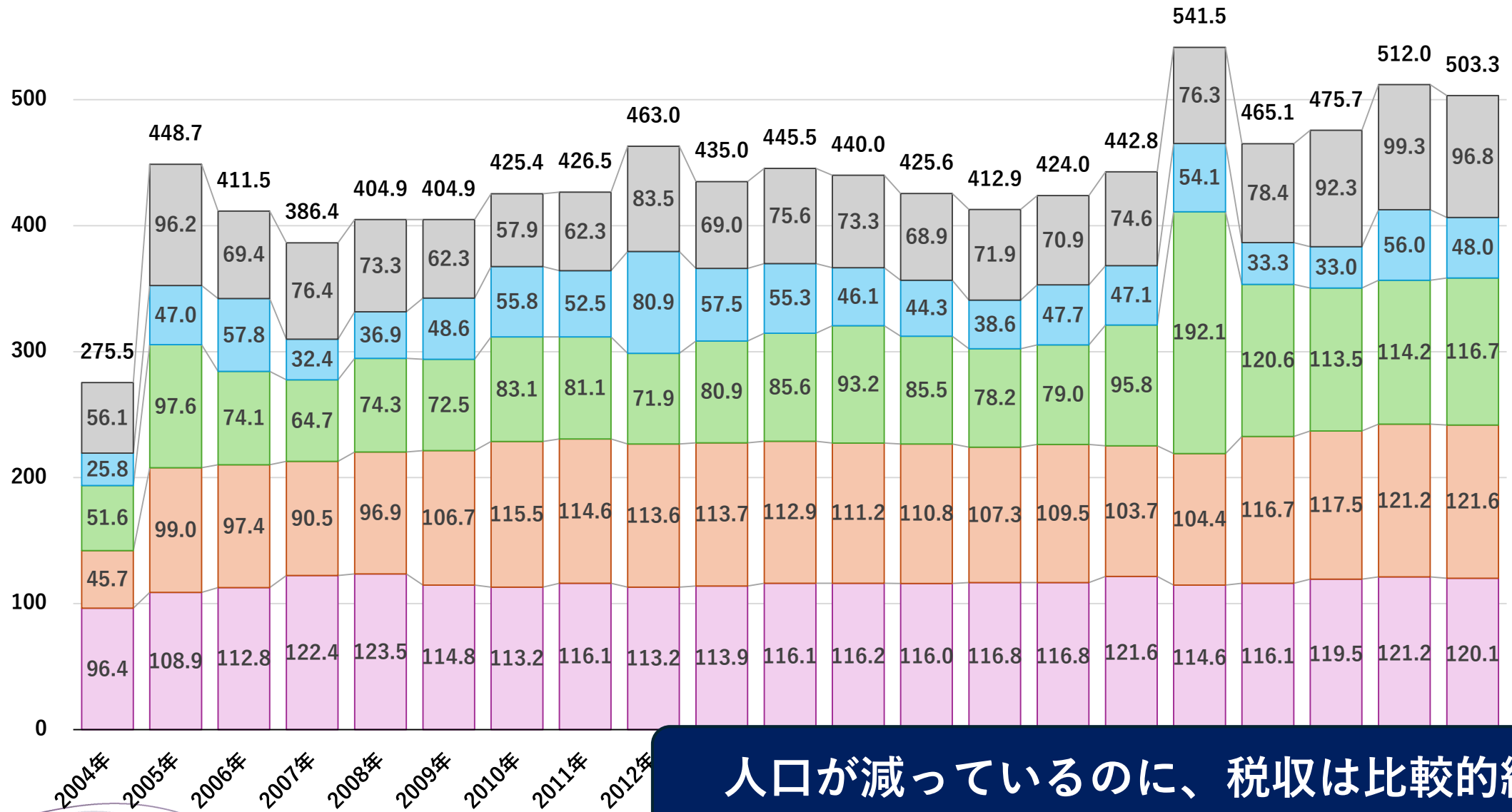
1-7 福知山市の歳出構造

600億円



1-8 福知山市の歳入構造

600 億円

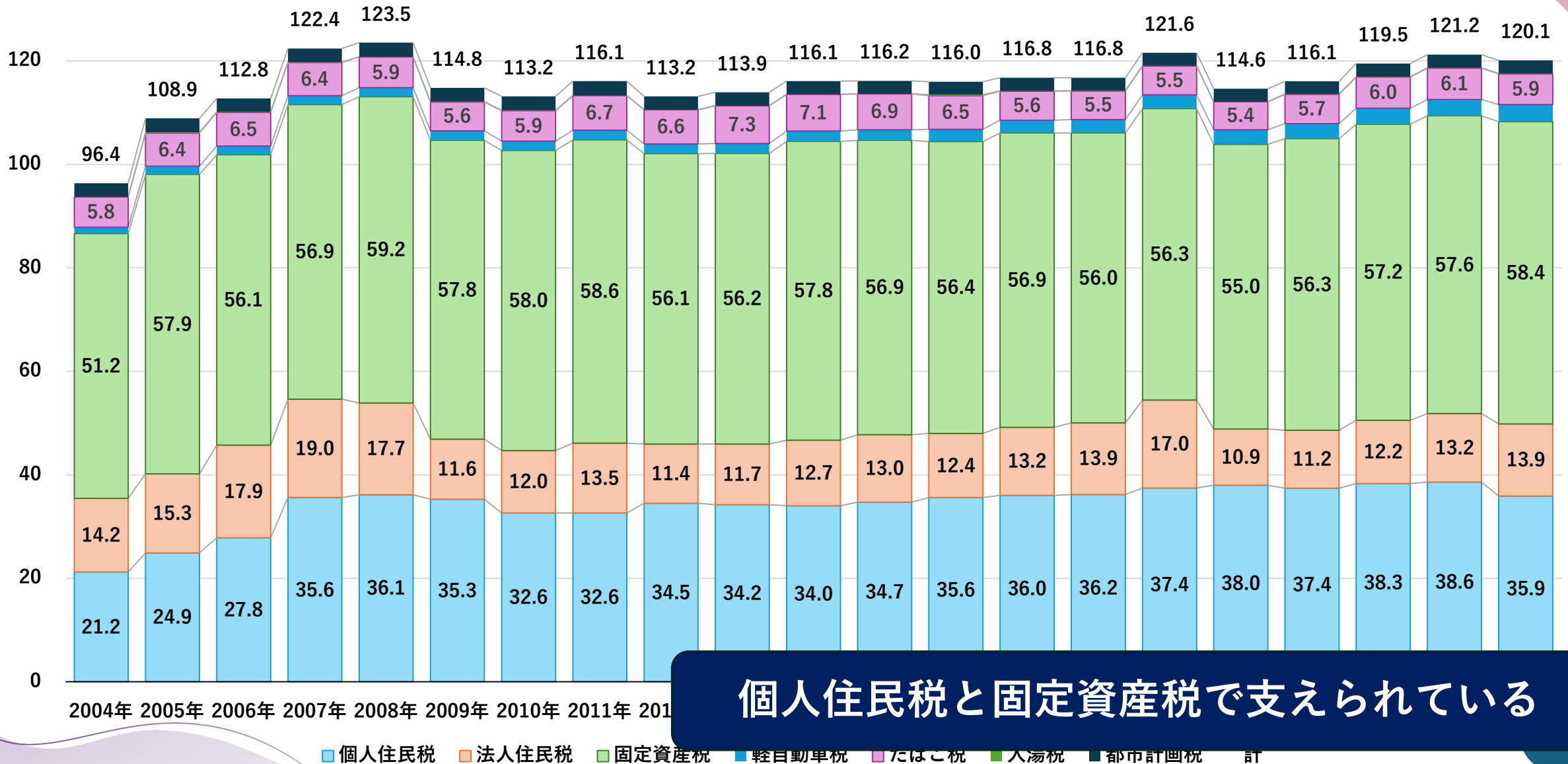


人口が減っているのに、税収は比較的維持

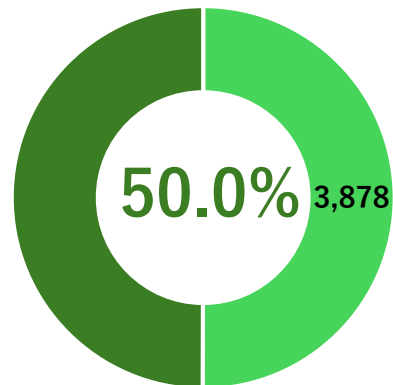
■ 地方税 ■ 地方交付税 ■ 国庫・道府県支出金 ■ 地方債 ■ その他

1-8 福知山市の歳入構造（地方税）

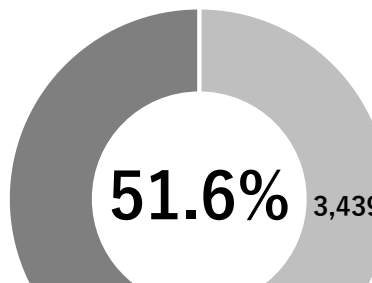
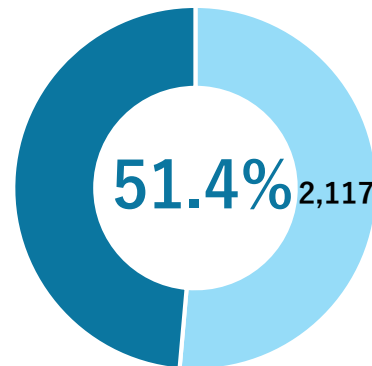
140 億円



1-9 山積する課題



- 働き手の減少
- 地域コミュニティの希薄化
- インフラの老朽化
- 空き家の増加



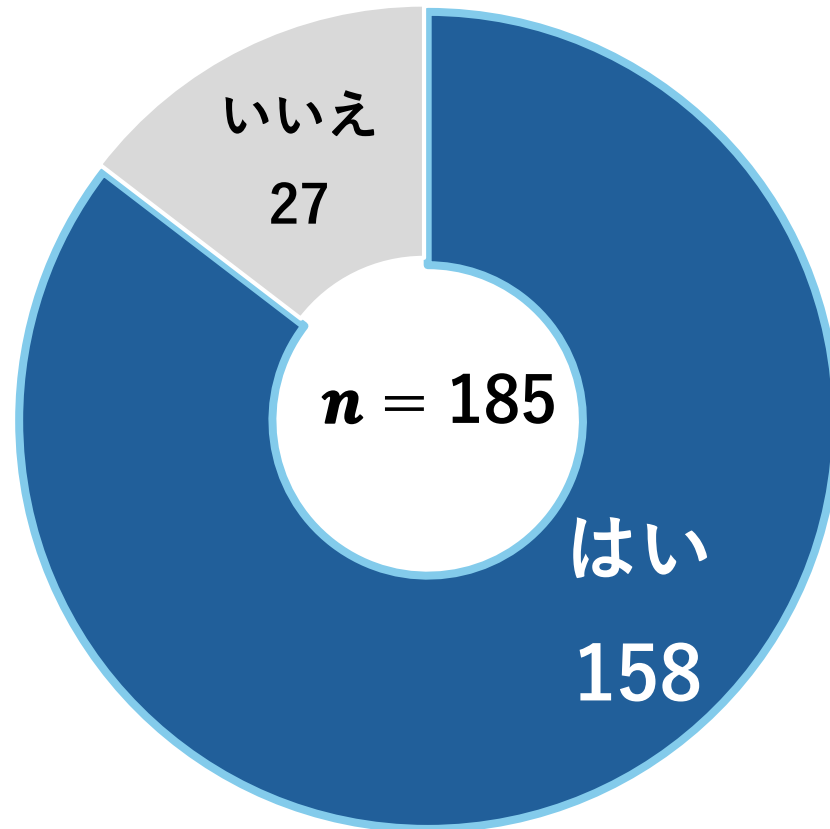
人口減少の影響は、税収より先に『地域の担い手不足』として現れている

2040年にかけて福知山市は、人口減少・少子高齢化により
私たちの暮らしに影響を及ぼ
す。

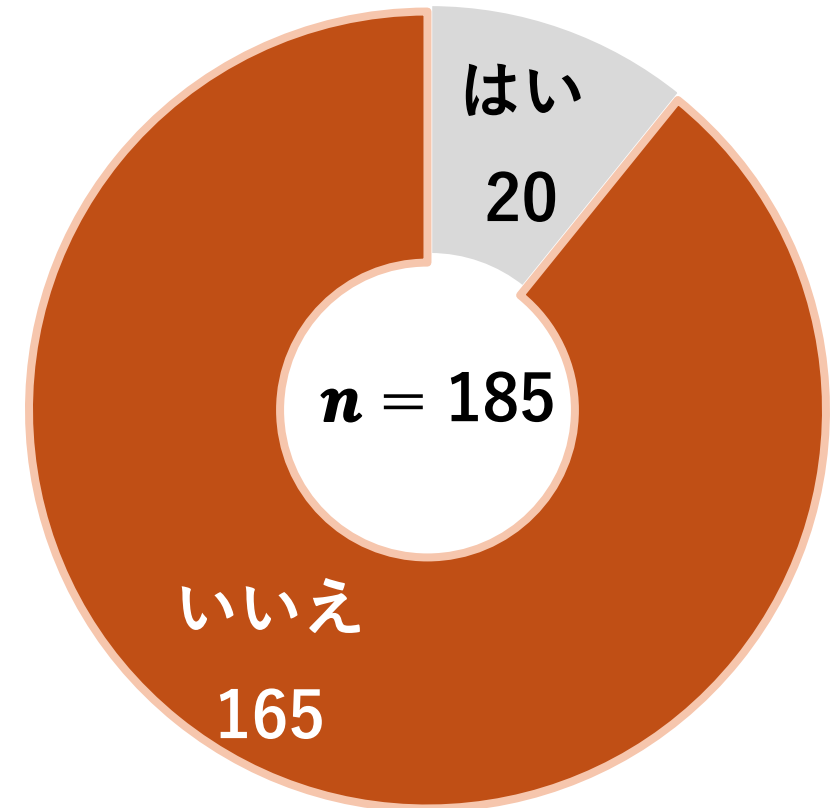
地域ごとで社会環境は大きく異なっており、
福知山市内でも格差が生まれてい
る。

1-11 大学生アンケート

- 福知山市は「魅力あるまち」と感じますか？



- 卒業後、福知山市に住みたいと思いますか？
(福知山市内で働きたいと思いますか？)



1-11 大学生アンケート

➤ 理由は？

分類	内容	出現頻度
① 交通・移動	電車・バス本数、京都・大阪へのアクセス、車依存	★★★★★
② 商業・娯楽	ショッピングモール、映画館、遊ぶ場所、カフェ	★★★★★
③ 若者定住・雇用	就職先不足、大企業不足、働く場の魅力不足	★★★★☆
④ 地域格差	市街地と周辺部の格差、旧三町との格差	★★★★☆
⑤ 道路・インフラ	道路舗装、歩道、街灯、交通安全	★★★★☆
⑥ 人口減少・高齢化	少子高齢化、担い手不足	★★★☆☆
⑦ 中心市街地活性化	商店街活性化、空き店舗対策	★★★☆☆
⑧ 交流・市民参加	地域とのつながり、学生と地域住民の交流	★★☆☆☆
⑨ 観光・魅力発信	福知山の知名度向上、観光資源活用	★★☆☆☆
⑩ 防災・安全安心	水害、防災、治安、交通マナー	★★☆☆☆

2

市民会議100の提言は何を示したのか

2-1 2040年市民会議とは何だったのか



福知山市2040年市民会議

ふくちやま、こうやってくらそう。



市民は福知山の未来をどのように考えたのか

2025年実施

無作為抽出 市民100人

1年間の議論（全5回）

100の提言を作成

行政が作成した計画案に意見を述べる従来型の参加ではなく、未来を市民と共有し、課題と対応の方向性を議論したことに大きな意義がある。

市民は行政サービスの拡充を求めたのではなかった

- 道路を作ってほしい
- 施設を建ててほしい

むしろ、

- 人と人がつながる
- こどもたちが地域で育つ
- 若者が関われる
- 市民が挑戦できる

『市民が主体となる未来像』

2-3 2040年市民会議 ⇒ 次期まちづくり構想審議会



福知山市2040年市民会議

ふくちやま、こうやってくらそう。



反映



次期
まちづくり構想

【2040年市民会議が描いた未来】

・ 人口減少社会では、行政だけでは地域を支えられない。

・ 市民会議の提言「自分で、みんなで福知山をつくる」

3

まちづくりへの参画を推進するために

3-1 なぜ住民参画が必要なのか

- 人口減少社会では、行政サービスだけでは地域を維持することは難しくなる。
- だからこそ、市民一人ひとりが地域づくりの担い手になることが求められている。
- 地域のことは、そこに住んでいるからこそ、わかる

(情報の非対称性)

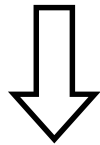
3-2 「自分事として・・・」？

- 「自分事として・・・」 ???
- 住民は、本当に無関心なのか？

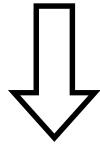
実は、関わる「きっかけ」がないだけでは？

3-3 住民参画の移り変わり

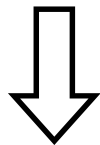
自治会等の役員



会合への参加



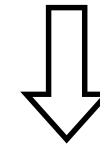
地域活動



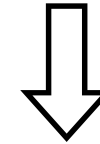
まちづくり



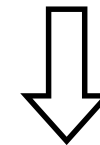
知る



意見を述べる



体験する



継続して関わる

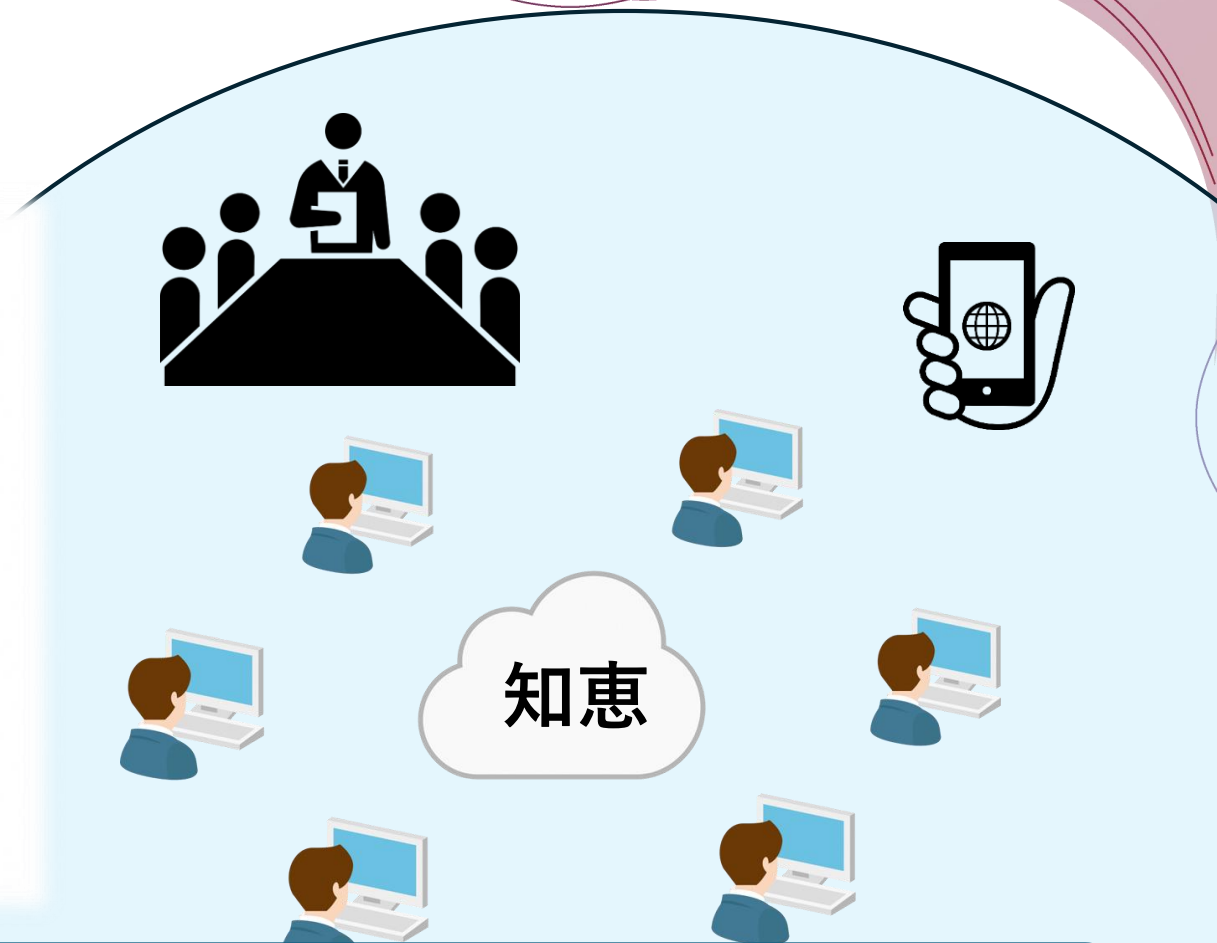
3-4 デジタル技術の活用

➤ 参画方法の多様化



2040の暮らしのスケッチ

ふくちやま、こうやってくらそう。



福知山の未来について住民がともに考え、知恵を出し合い
福知山をより良い方向へ変えていこうとすることが重要である。

3-5 若者/大学生が参画したくなる条件

➤ 「義務感」ではなく、「共感」することが大切、そして「共鳴」へ

- ① 自らの意見が反映される
- ② 活動の成果が見える
- ③ 同世代とのつながりができる
- ④ 学びや成長につながる
- ⑤ 楽しい

4

自分で、みんなで福知山をつくっていく

4 自分で、みんなで福知山をつくる



自分に合った方法で関われる仕組みづくり
「参加を求める」のではなく、「参加しやすい環境をつくる」

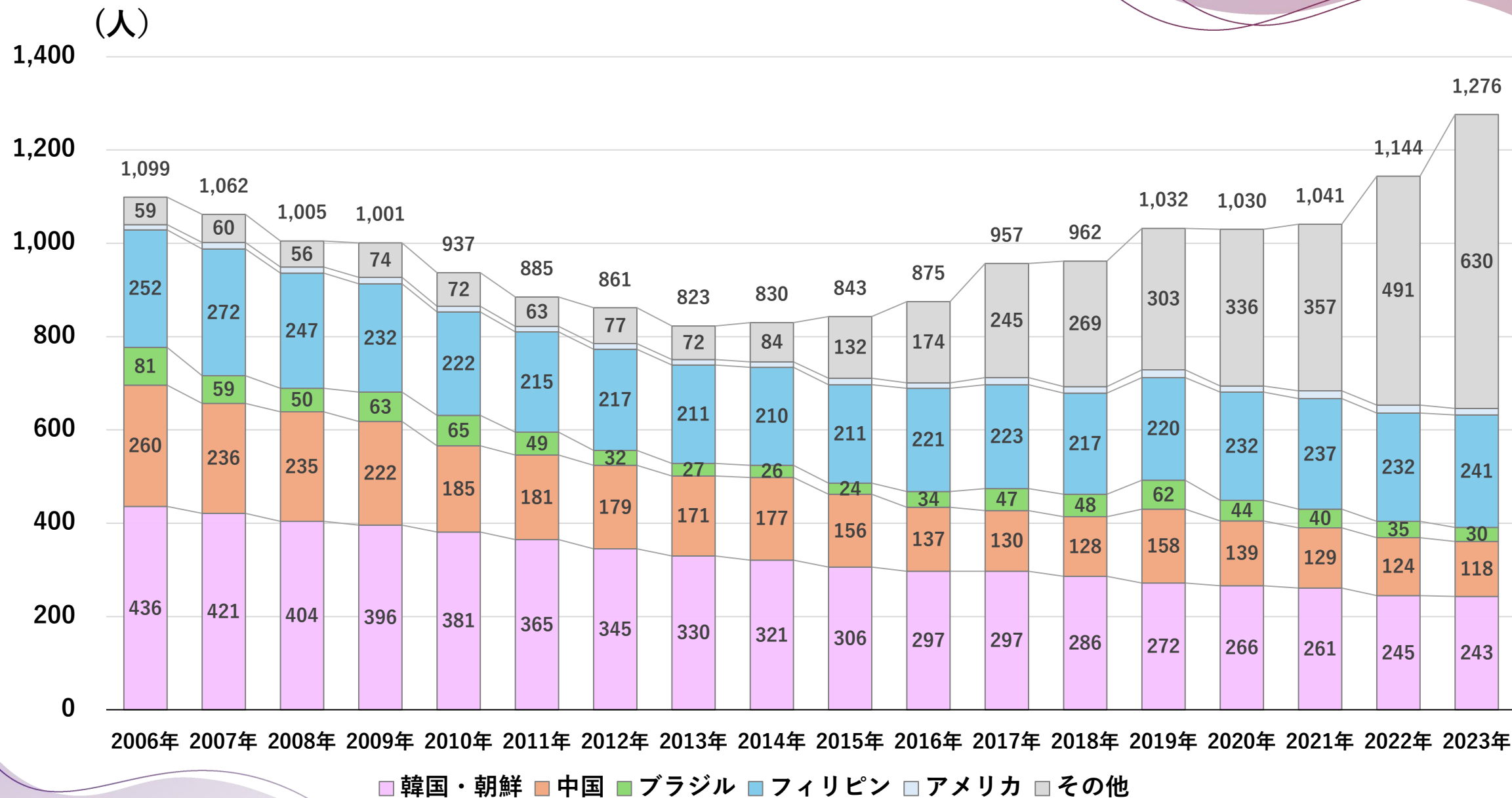
「自分で、みんなで福知山をつくる」

という言葉を出発点に

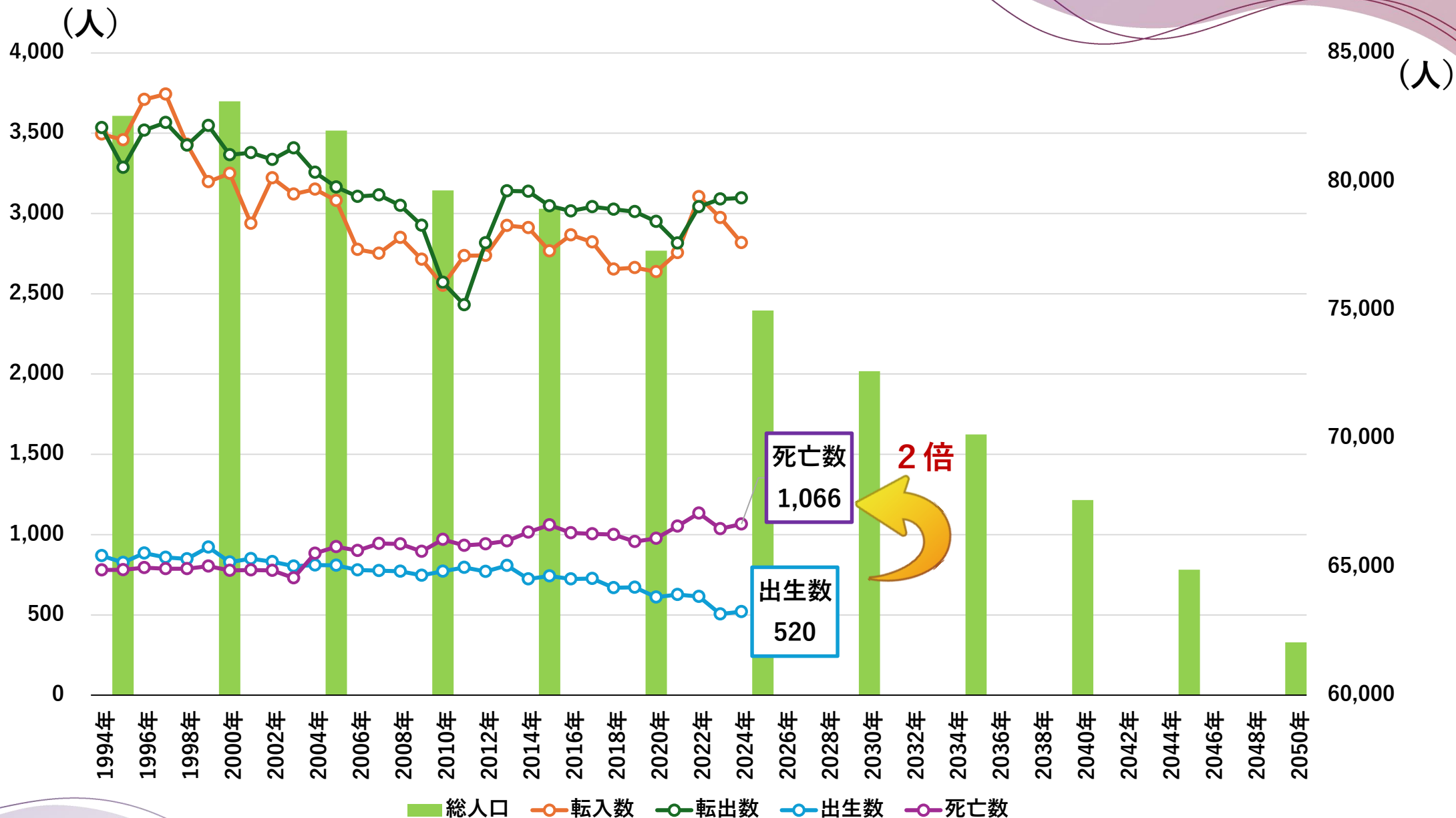
ご静聴ありがとうございました

福知山公立大学
会計情報と地域分析に関する研究ゼミ

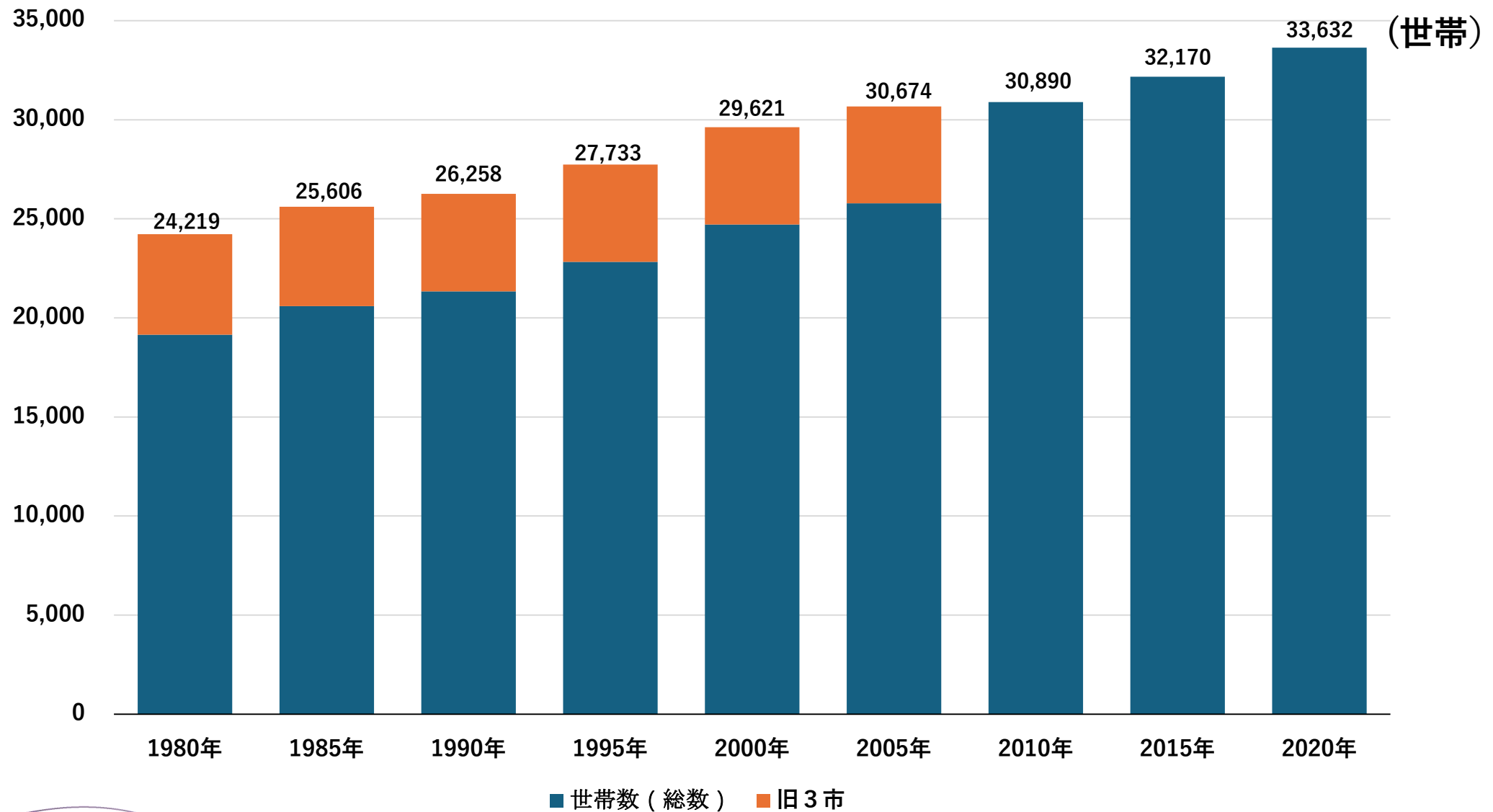
資料-1 外国人の人口推移



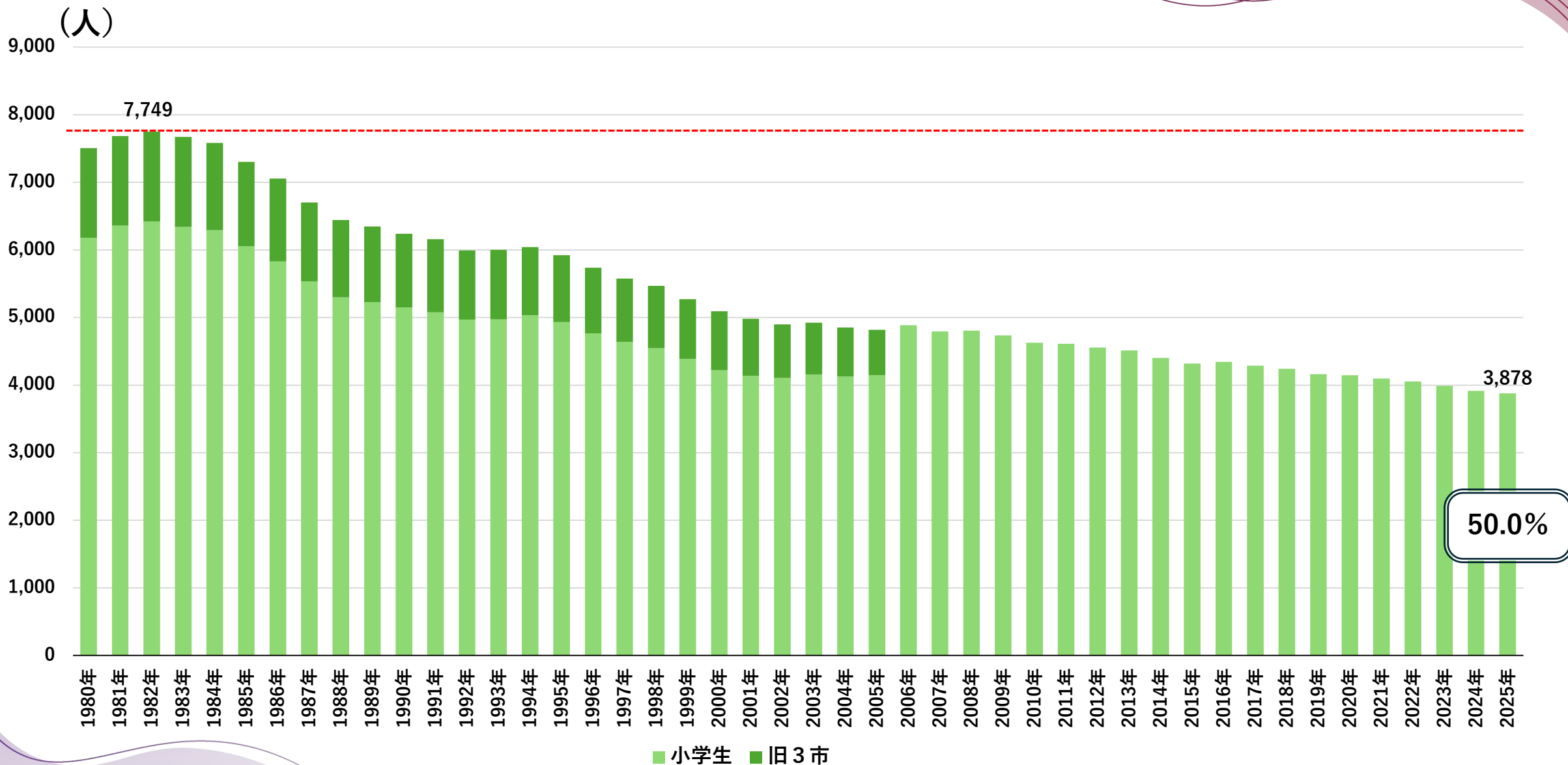
資料-2 転入数/転出数、出生数/死亡数



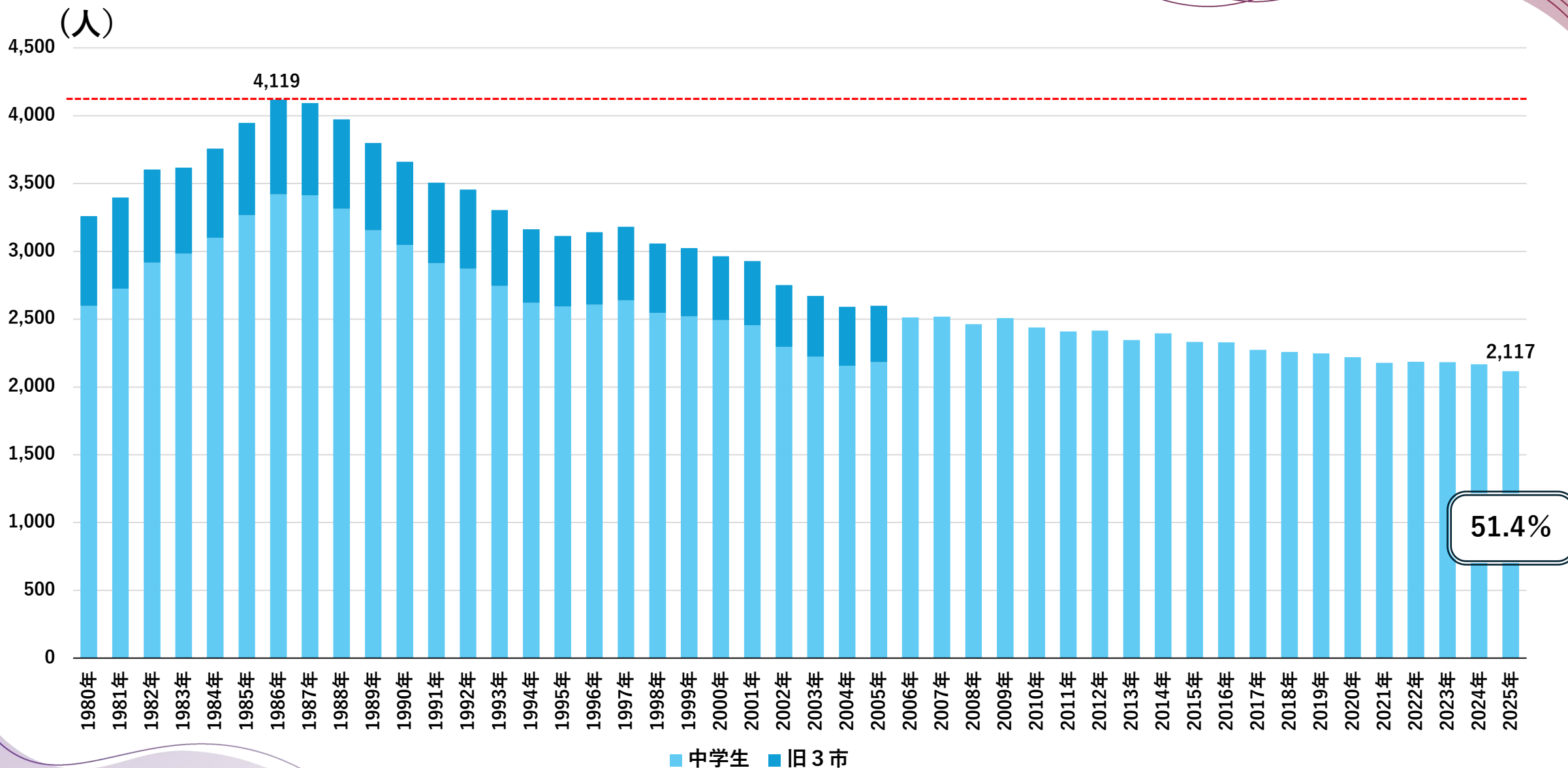
資料-3 世帯数の推移



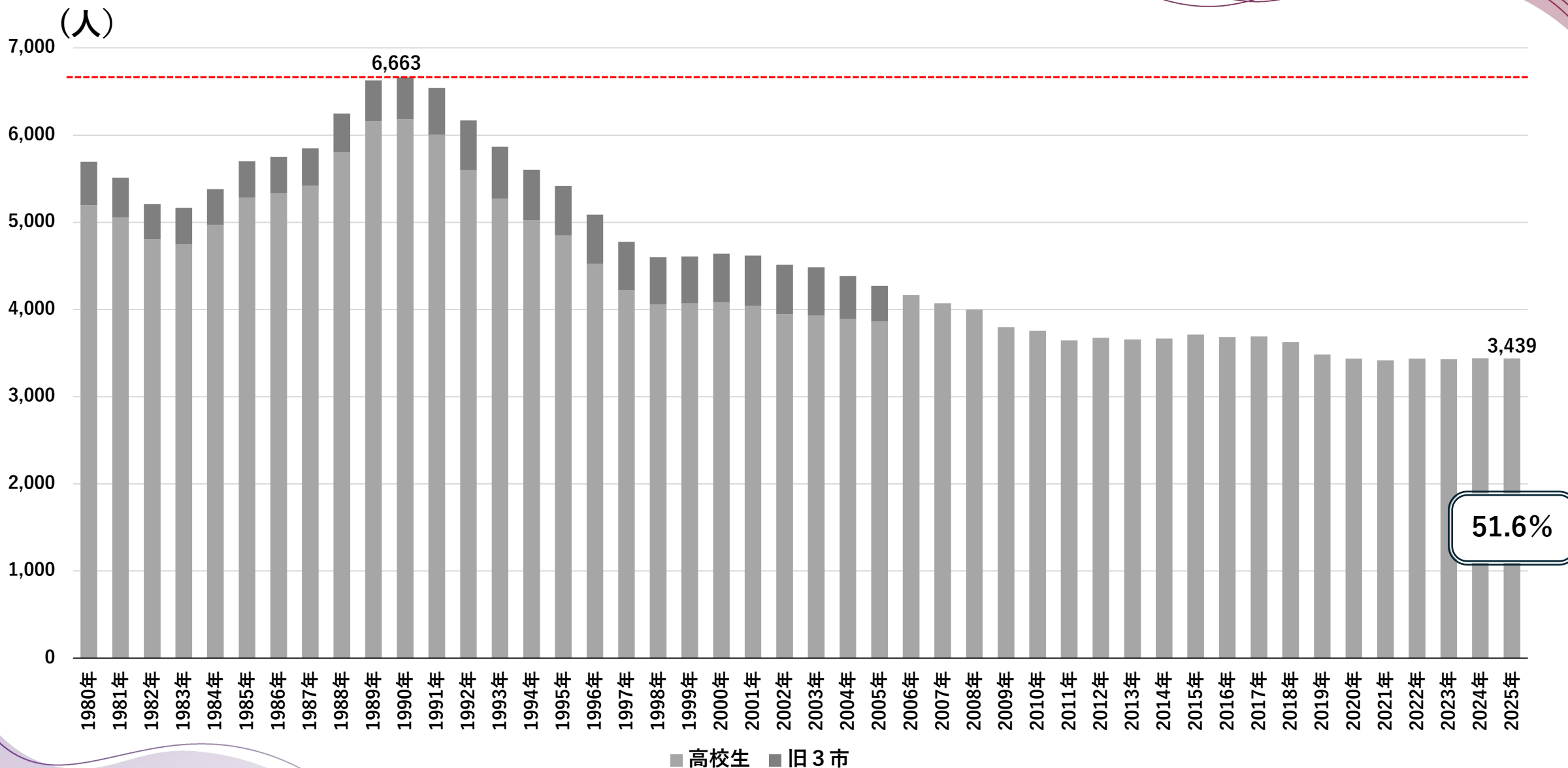
資料-4 小学生数の推移



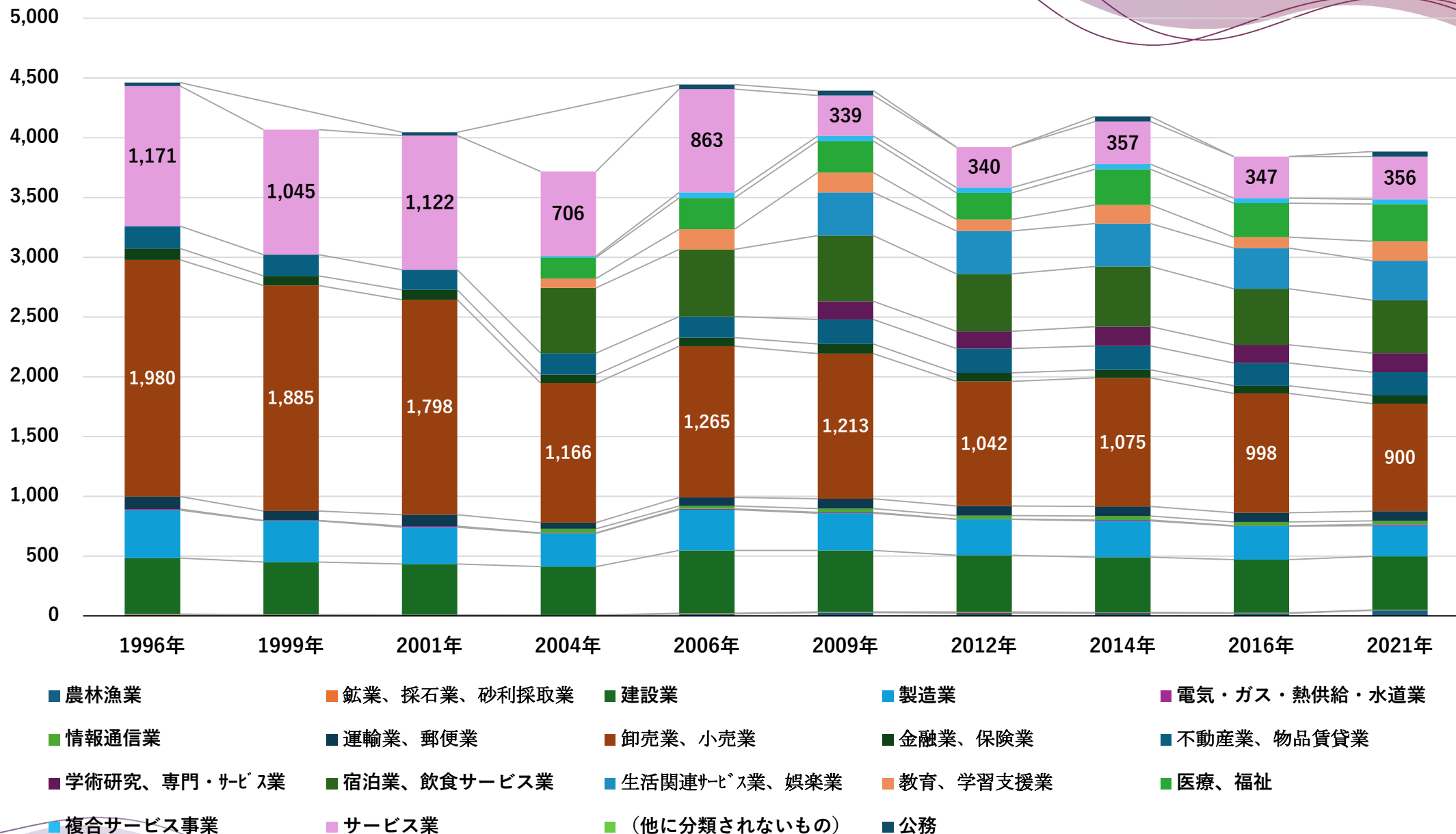
資料-5 中学生数の推移



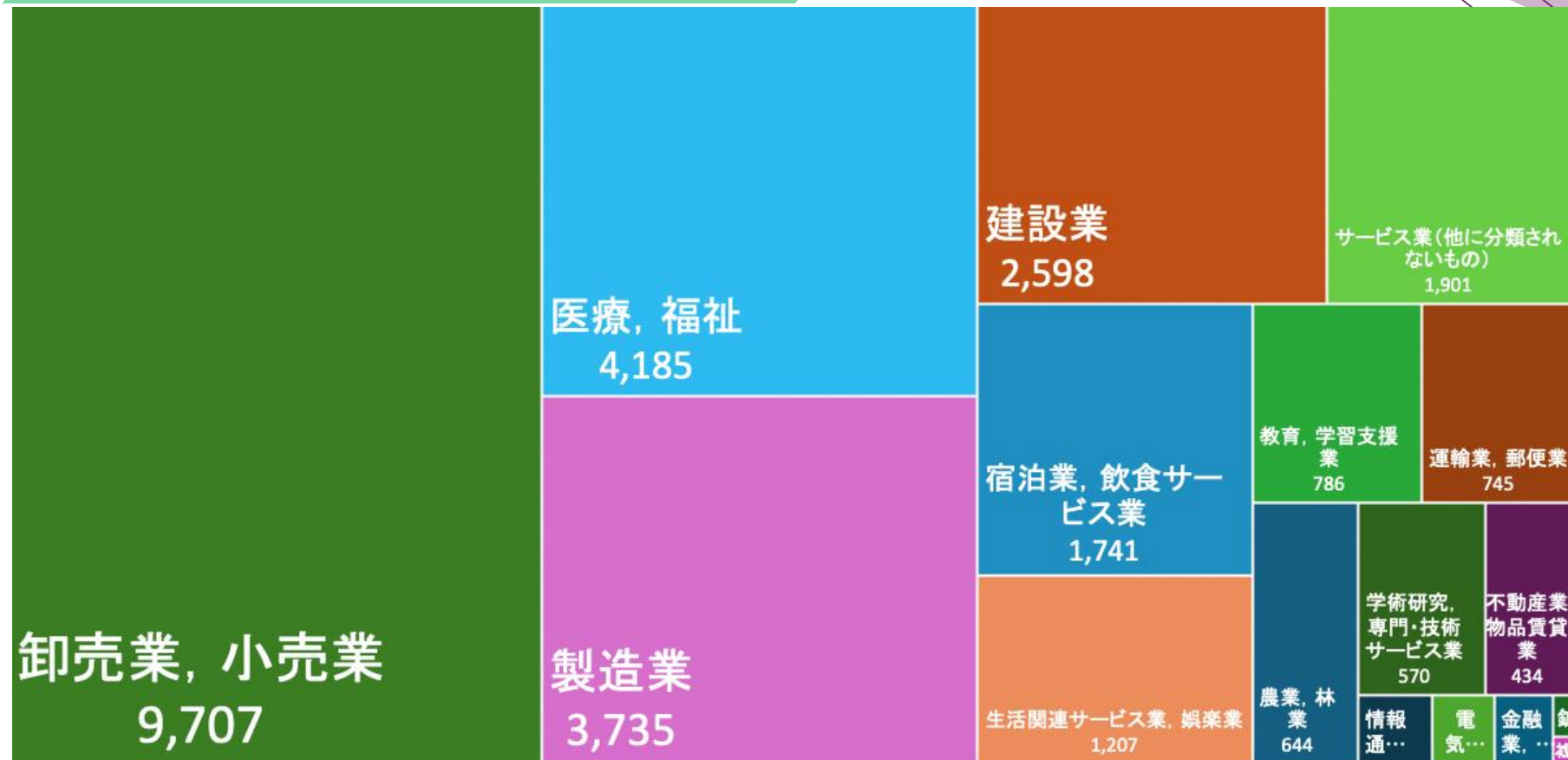
資料-6 高校生数の推移



資料-7 事業所数の推移



資料-8 従業員数



資料-9 空き家数の推移

